

HiKOKI

取扱説明書

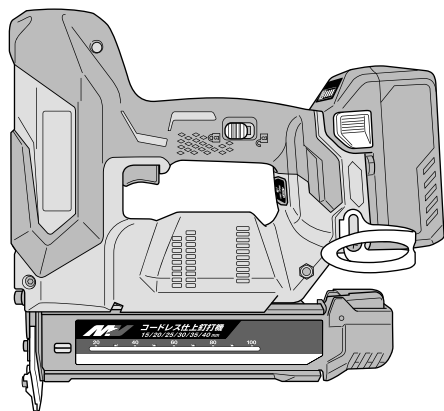
用途

- 建築内装の巾木・回り縁などの化粧合板止め
- 家具製造
- 下地施工

コードレス仕上釘打機

36 V NT 3640DA

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

はじめに

コードレス工具の安全上のご注意	1
本製品の使用上のご注意	4
リチウムイオン電池の使用上のご注意	7
各部の名称	9
仕様	10
標準付属品	11
別売部品	12

使い方

蓄電池の取りはずし・取付け	13
六角棒スパナの収納について	13
電池残量表示について	14
LED ライトの使い方	15
警告シグナルについて	16
打ち込み深さの調整	17
空打ち防止機構について	17
釘残量確認窓について	17
釘の取扱い方	18
フックの使い方	18
ご使用前の点検・準備	19
釘の装てんと抜き取り	21
釘を打つ	23

その他

保守・点検	25
ご修理のときは	裏表紙

⚠警告、**⚠注意**、**注** の意味について

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、**⚠注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

コードレス工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてを良くお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

- ① **専用の充電器や蓄電池を使用してください。**
弊社カタログに記載されている指定の充電器や蓄電池を使用してください。
指定以外の蓄電池を使用すると、破裂して傷害や損害を及ぼす恐れがあります。
- ② **蓄電池の端子間を短絡（ショート）させないでください。**
釘袋などに入れると、短絡（ショート）して、発煙・発火・破裂などの恐れがあります。
- ③ **蓄電池の内部に、水のような導電性の液体を入れないでください。**
発熱・発火・破裂の恐れがあります。
- ④ **作業場や保管場所の周囲状況も考慮してください。**
 - 工具本体や蓄電池は、雨の中や湿った場所で使用・放置・保管をしないでください。感電や発煙の恐れがあります。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
暗い場所での作業は、事故の原因になります。
 - 可燃物、可燃性あるいは腐食性の液体やガスがある所での使用・充電・保管をしないでください。発火や火災の恐れがあります。
- ⑤ **保護メガネを使用してください。**
作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
切削した物や粉じんが目や鼻に入る恐れがあります。
- ⑥ **加工する物をしっかりと固定してください。**
加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。
手で保持するより安全で、両手でコードレス工具を使用できます。
固定が不十分な場合は、加工する物が飛んで、けがの原因になります。

⚠警告

- ⑦ 次の場合は、コードレス工具のスイッチをロックし、蓄電池を工具本体から抜いてください。
 - 使用しない、または、準備・調整・点検・修理する場合。
 - 付属品や別売部品を取付け、交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。コードレス工具が作動して、けがの原因になります。
- ⑧ 不用意な始動は避けてください。
スイッチに指を掛けて運ばないでください。
コードレス工具が作動して、けがの原因になります。
- ⑨ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。
この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメントを使用してください。事故やけがの原因になります。
- ⑩ 蓄電池を火の中に投入しないでください。
破裂して、有害物質が出る恐れがあります。

⚠注意

- ① 作業場は、いつもきれいに保ってください。
散らかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② 子供を近づけないでください。
 - 作業者以外、コードレス工具に触れさせないでください。
けがの原因になります。
 - 作業者以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。
 - 安全に責任を負う人の監視または指示がないかぎり、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ③ 使用しない場合は、きちんと保管してください。
 - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。事故の原因になります。
 - 工具本体や蓄電池を、温度が 50℃ 以上に上がる可能性のある場所（金属の箱や夏の車内など）に保管しないでください。
蓄電池劣化の原因になり、発煙、発火の恐れがあります。
- ④ 無理して使用しないでください。
 - 安全に能率良く作業するために、コードレス工具の能力に合った速さで作業してください。能力以上での使用は、事故の原因になります。
 - モーターがロックするような無理な使い方はしないでください。
発煙、発火の恐れがあります。
- ⑤ 作業に合ったコードレス工具を使用してください。
 - 小形のコードレス工具やアタッチメントは、大形のコードレス工具で行う作業には使用しないでください。けがの原因になります。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。けがの原因になります。

⚠注意

- ⑥ **きちんとした服装で作業してください。**
 - ・だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、着用しないでください。回転部に巻き込まれる恐れがあります。
 - ・屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。滑りやすい手袋や履物は、けがの原因になります。
 - ・長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。回転部に巻き込まれる恐れがあります
- ⑦ **無理な姿勢で作業をしないでください。**

常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
転倒して、けがの原因になります。
- ⑧ **コードレス工具は、注意深く手入れをしてください。**
 - ・安全に能率良く作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、良く切れる状態を保ってください。損傷した刃物類を使用すると、けがの原因になります。
 - ・付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。けがの原因になります。
 - ・握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースが付かないようにしてください。けがの原因になります。
- ⑨ **調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**

スイッチを入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。付けたままでは、作動時に飛び出して、けがの原因になります。
- ⑩ **油断しないで十分注意して作業をしてください。**
 - ・コードレス工具を使用する場合は、取扱方法、作業の仕方、周りの状況など、十分注意して慎重に作業をしてください。軽率な行動をすると、事故やけがの原因になります。
 - ・常識を働かせてください。非常識な行動をすると、事故やけがの原因になります。
 - ・疲れている場合は、使用しないでください。事故やけがの原因になります。
- ⑪ **損傷した部品がないか点検してください。**
 - ・使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
 - ・可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
 - ・破損した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
 - ・スイッチで始動および停止操作のできないコードレス工具は、使用しないでください。誤作動して、けがの原因になります。
- ⑫ **コードレス工具の修理は、専門店に依頼してください。**
 - ・サービスマン以外の方は、工具本体や蓄電池の分解・修理・改造をしないでください。発火や誤作動など、けがの原因になります。
 - ・コードレス工具が高温になるなど、異常に気付いたときは、点検・修理に出してください。
 - ・この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - ・修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

本製品の使用上のご注意

先にコードレス工具として共通の注意事項を述べましたが、コードレス仕上釘打機として、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠警告

① 保護メガネを使用してください

- 作業中は保護メガネを使用してください。
- 周りの人にも保護メガネをかけさせてください。

釘を連結している接着剤や打ち損じの釘が目にあたると、けがの原因になります。

② 騒音から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。

③ 作業環境に応じてヘルメット、安全靴、防じんマスクなどの防具を着用してください。

④ 蓄電池を取付ける前に、次の点検をしてください。

- ねじがゆるんでいないこと。
- 損傷したり、はずれている部品がないこと。
- さび付きなどで、正常に作動しない部品がないこと。
- プッシュレバーを押し込んで上下させたとき、スムーズに動くこと。
- 押し込んだプッシュレバーが元の位置に戻ることに異常のあるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- スイッチがロックされていること。(P.19「スイッチのロック機構について」参照)

⑤ 蓄電池を取付けるときは、次のことに注意してください。

- プッシュレバーの先に触れたり、対象物に当てた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。

誤って釘が発射した場合、けがの原因になります。

⑥ 使用前に安全装置の点検をしてください。

本製品は、射出口を打ち込み対象物に当て、さらにスイッチを引かないと、釘が発射されない構造になっています。

釘を装てんする前に蓄電池を取付け、マガジンカバーを開いて次の点検をしてください。

- スイッチを引いただけで、モーターが作動しないこと。
 - プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけで、作動音がしないこと。
- 異常のあるまま使用すると、けがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑦ 人体に射出口を向けないでください。

人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。

⚠ 警告

- ⑧ **無理な姿勢で作業をしないでください。**
 - ・常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
 - ・高所作業のときは、釘打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。

転倒や落下など、けがの原因になります。
- ⑨ **射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。**

誤って釘が発射したり、はね返って飛んだときなど、けがの原因になります。
- ⑩ **作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。**
- ⑪ **使用中は、機体を確実に保持してください。**
- ⑫ **釘を打ち込む材料の裏側に、手や体を置かないでください。**

釘が突き抜けたり、材料が欠けたときなどに、けがの原因になります。
- ⑬ **可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。**

可燃性の液体やガス（シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など）のある所で使用しないでください。

釘を打ち込むときの火花による爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。
- ⑭ **釘を打ち込むとき以外はスイッチをロックしてください。また、スイッチに指を掛けないでください。**
 - ・スイッチに指を掛けて、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。
 - ・釘を装てんするときや調整などをするときは、スイッチに指を掛けないでください。

誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。
- ⑮ **次の場合は、スイッチをロックして、蓄電池を工具体体から抜いてください。**
 - ・使用しない場合や作業中断時、修理する場合。
 - ・点検・修理・調整、釘詰まりの直しなどの場合。
 - ・釘の装てん、または抜き取る場合。

誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。
- ⑯ **釘を打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。**

一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。

釘がはね返ったり、機体が反発することもあり、けがの原因になります。
- ⑰ **作業中は周りの人に注意してください。**
 - ・釘を連結している接着剤やテープの破片、打ち損じた釘が当たる恐れがあります。
 - ・高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。

機体や材料を落としたときなど、事故の原因になります。
- ⑱ **薄い板や木材の端に釘を打たないでください。**

薄い板に打つと釘が突き抜けたり、木材の角に打つと釘がそれたりして、けがの原因になります。
- ⑲ **機体の反発に注意してください。**

かたい所に打った場合、機体のはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。
- ⑳ **壁の両側から同時に釘打ち作業をしないでください。**

打った釘が突き抜けたり、壁ぎわの釘がそれたりして、けがの原因になります。

⚠ 警告

㉑ 屋外での作業は、次のことに注意してください。

- 屋根などの斜面で釘を打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。
後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。
- 床などの水平面で釘を打つときは、前進しながら作業してください。
後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。
- 壁などの垂直面に釘を打つときは、上から下へ作業してください。

㉒ 誤って落としたり、衝撃が加わったりしたときはスイッチをロックし、蓄電池を取りはずして機体や釘などに破損や亀裂、変形がないことを点検してください。

特に次の点に注意してください。

- プッシュレバーを押し込んで上下させたときスムーズに動くこと。
- 押し込んだプッシュレバーが元の位置に戻ることを。

㉓ 精密部品を内蔵していますので、落下等の強い衝撃を加えたり、水にぬらしたりしないでください。

誤作動等を起こす原因になります。

㉔ 工具本体、および蓄電池の端子部（蓄電池取付部）に変形が生じた場合は、使用しないでください。

蓄電池を取付けた場合に短絡（ショート）して、発煙・発火の恐れがあります。

㉕ 工具本体の端子部（蓄電池取付部）に、切りくずやほこりがたまらないようにしてください。

- 使用前に、端子部に切りくず、ほこりがたまっていないことを確認してください。
- 作業中に、機体に付いた切りくず、ほこりが端子部に降りかからないようにしてください。
- 使用中断時、および使用後に切りくず、ほこりが降りかかる場所に機体を放置しないでください。

短絡（ショート）して、発煙・発火などの恐れがあります。

⚠ 注意

① LED ライトをのぞき込んで、直接 LED ライトの光を目に当てないでください。

② 蓄電池は確実に取付けてください。

③ スイッチパネルに強い衝撃を与えたり、破いたりしないでください。

④ 蓄電池を一般のごみと一緒に捨てないでください。

⑤ 蓄電池は子供の手の届かない所に保管してください。

⑥ 蓄電池の仕様表示に従って正しく使用してください。

リチウムイオン電池の使用上のご注意

本製品はリチウムイオン電池を使用します。リチウムイオン電池には、寿命を長くする目的で出力を停止する保護機能が付いています。

下記 ①、②、③ の場合、本製品を使用中にモーターが停止することがあります。これは保護機能によるものであり故障ではありません。

- ① 電池残量が少なくなるとモーターが停止します。
速やかに充電してください。
- ② 工具本体が過負荷状態になるとモーターが停止する場合があります。
スイッチを切り、過負荷の原因を取り除いてください。
- ③ 蓄電池が過熱状態になるとモーターが停止する場合があります。
蓄電池の使用を中断し、工具本体より取りはずして、風通しの良い日かげなどで蓄電池を十分に冷ましてください。

再びご使用になれます。

さらに蓄電池の液漏れ、発熱・発煙・発火を未然に防ぐため、次に述べる注意事項を守ってください。

⚠警告

- ① 蓄電池に切りくずやほこりがたまらないようにしてください。
 - ・作業中に切りくずが蓄電池に降りかからないようにしてください。
 - ・作業中に機体に付いた切りくず、ほこりが蓄電池に降りかからないようにしてください。
 - ・使用しないときに切りくず、ほこりが降りかかる場所に蓄電池を放置しないでください。
 - ・保管時、蓄電池は切りくず、ほこりを落とし、金属製の部品（ねじ、釘など）とは別々にしてください。
- ② 蓄電池に釘をさす、ハンマーでたたく、踏みつける、投げつけるなど強い衝撃を与えないでください。
- ③ 誤って落とすなど、外傷、変形の著しい蓄電池は使用しないでください。
- ④ 蓄電池を指定機器以外の用途に使わないでください。
- ⑤ 蓄電池を電子レンジや高圧容器に入れるなど、過熱・高圧を与えないでください。
- ⑥ 蓄電池が液漏れしたり、異臭を発したりするときは直ちに火気より遠ざけてください。
- ⑦ 強い静電気の発生する場所では使用しないでください。
- ⑧ 蓄電池の使用、充電、保管時に異臭・発熱・変色・変形、その他異常に気が付いたときは、直ちに使用を中止して、お買い求めの販売店に相談してください。

⚠注意

- ① 蓄電池が液漏れして液が目に入ったときは、こすらずにすぐ水道水などのきれいな水で十分に洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。
放置すると液により目に障害を与える原因になります。
- ② 蓄電池が液漏れして液が皮膚や衣類に付着した場合は、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。
皮膚がかぶれたりする原因になる恐れがあります。

蓄電池はリサイクルへ.....

蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源です。蓄電池や製品の廃棄の際は、リサイクルにご協力いただき、お買い求めの販売店にご持参ください。

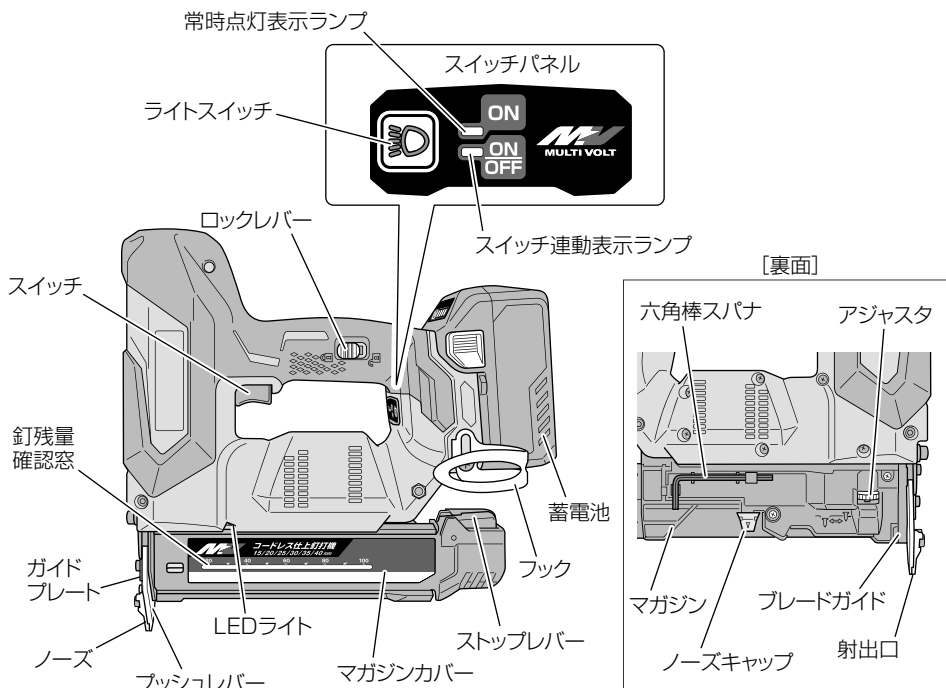


○新しい蓄電池は、弊社純正品をご使用ください

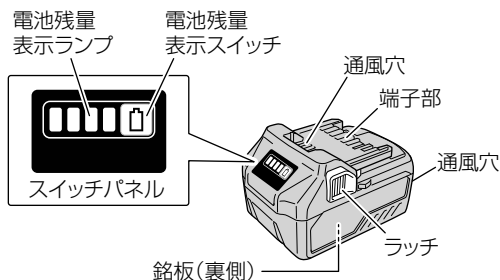
弊社指定の蓄電池以外の使用や分解、改造した物（蓄電池を分解してセルなどの内蔵部品を交換した物を含みます）は、安全性や製品に関する保証はできません。

各部の名称

工具本体



蓄電池



仕 様

1. 工具体体

形 名	NT 3640DA					
能 力 (使 用 仕 上 釘)	(寸法単位 : mm)					
	形 状	A	B	C	D	E
		1.9	1	1.1	1.25	15
						20
						25
						30
						35
40						
釘 の 装 て ん 数	100 本 (1 連)					
モ ー タ ー	直流ブラシレスモーター					
工 具 本 体 寸 法 全 長 × 高 さ × 幅	270 × 252 × 83 mm (BSL 36A18 装着時)					
質 量	2.5 kg (BSL 36A18 装着時)					
L E D ラ イ ト	白色 LED					
使 用 可 能 蓄 電 池	マルチボルトタイプ蓄電池					

2. 蓄電池

形 名	BSL 36A18	
種 類	円筒密閉形リチウムイオン電池	
電 池 電 圧	36 V / 18 V (工具体体により自動切替)	
容 量	2.5 Ah / 5.0 Ah (工具体体により自動切替)	
冷 却	対応	
使 用 可 能 コードレス製品	18 V 品 : 使用可 36 V 品 : マルチボルトタイプ蓄電池対応製品	
使 用 可 能 充 電 器	スライド式リチウムイオン電池対応充電器 UC 36xxx、UC 18xxx シリーズ	
残 量 表 示 ラ ン プ	緑色 LED	

標準付属品

品名・形名	仕 様	XP	NNK
蓄電池 BSL 36A18 ^{※1}		1 個	—
充電器 ^{※2}		1 台	—
ノーズキャップ (A) ^{※1} [赤]		1 個	1 個
ノーズキャップ (B) [オレンジ]		1 個	1 個
六角棒スパナ 3 mm ^{※1}		1 個	1 個
保護メガネ		1 個	1 個
収納ケース		1 個	1 個
電池カバー		1 個	—

※1：出荷時、工具本体の収納部に取付けてあります。

※2：取扱い方法は、充電器の取扱説明書を確認してください。

別売部品 (別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。)

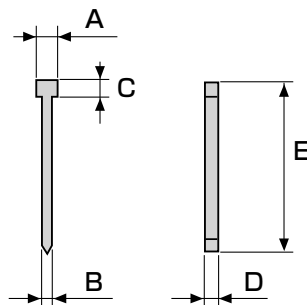
1. 仕上釘

この釘打機は、下の表に示す仕上釘が使用できます。

釘は 100 本が 1 連に接着されています。

釘はこの釘打機をお買い上げの販売店で
お求めください。

釘の頭の色は下地材に合わせてお選びください。



注 下表に記載の弊社指定釘から適切な釘をご使用ください。
純正釘以外の仕上釘を使用すると、
釘詰まりなど故障の原因になります。

(寸法単位 : mm)

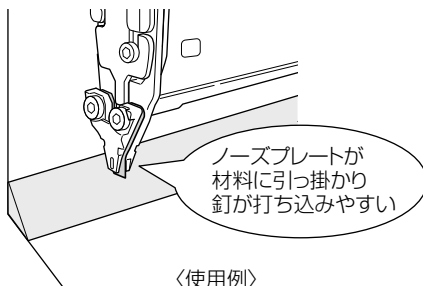
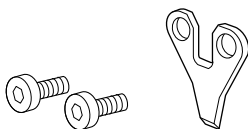
釘		A	B	C	D	E	材質、頭の色
仕上釘	T 1015	1.9	1	1.1	1.25	15	鉄: 白、茶、薄茶、ベージュ (W) (B) (LB) (Y)
	T 1020					20	
	T 1025					25	
	T 1030					30	ステンレス: シルバー (S)
	T 1035					35	
	T 1040					40	

注 超仕上釘 (弊社形名 T 10xxUX シリーズ) は使用できません。

2. ノーズプレートセット (型枠用)

ノーズプレートセットを工具本体に取付けることで、先端が材料に引っ掛かりやすくなります。

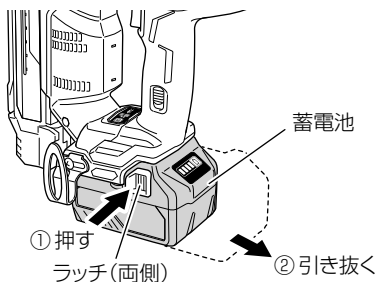
これにより、斜面に釘を打ち込みやすくなるため、型枠の面木留めに適しています。



蓄電池の取りはずし・取付け

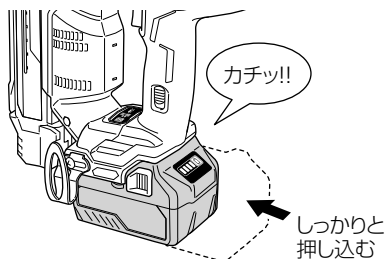
蓄電池を工具本体から取りはずすときは、両側のラッチを押しながら、スライドさせて引き抜きます。

取りはずすとき



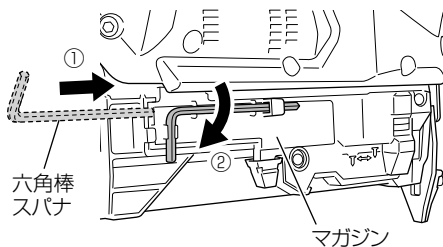
蓄電池を取付けるときは、「カチッ」と音がするまでしっかりと押し込んでください。

取付けるとき



六角棒スパナの収納について

マガジンに六角棒スパナを収納することができます。
右図のように収納してください。



電池残量表示について

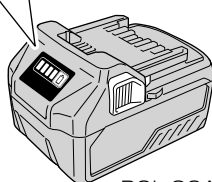
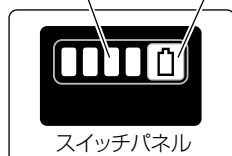
電池残量表示スイッチを押すとランプが点灯して、電池残量を確認することができます。

電池残量表示スイッチを押してから、約 3 秒後にランプは消灯します。

電池残量表示は、使用環境、電池特性等で多少異なりますので目安として見てください。

また、残量表示機能のある製品側、および充電器側の残量表示と異なる場合があります。

電池残量表示ランプ 電池残量表示スイッチ



BSL 36A18

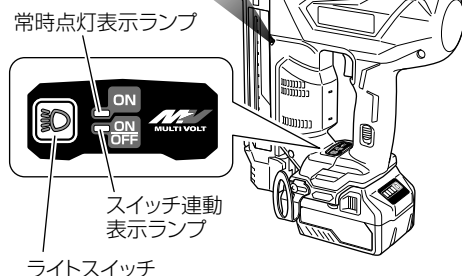
ランプの点灯状態		電池残量
 	点灯	75% 以上
		50% ～ 75% 未満
		25% ～ 50% 未満
		25% 未満
 	点滅	0%
		高温のため出力停止 ^{※1}
		故障のため出力停止 ^{※2}

※1：蓄電池を工具本体より取りはずし、十分に冷ましてください。

※2：蓄電池の故障と考えられますので、お買い求めの販売店に相談してください。

LED ライトの使い方

ライトスイッチを押して、LED ライトの点灯モードを切り替えることができます。



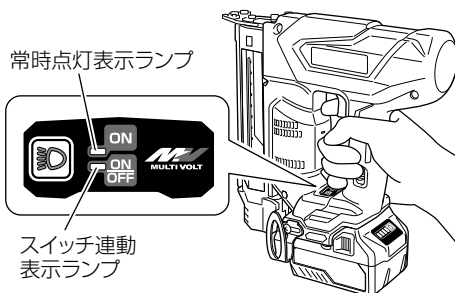
点灯モード	スイッチ連動	OFF	常時点灯
ランプの点灯状態			
状態	プッシュレバーを押し付けたとき、またはスイッチを引いたとき点灯 (スイッチをはなしてから約 30 秒後に自動消灯)	消灯	点灯 (約 2 分後に自動消灯)

- 注**
- 常時点灯モードは、LED ライトの消し忘れによる蓄電池の消耗を防止するため、約 2 分経過すると自動で消灯します。
 - ライトのレンズ部に付着したごみは、柔らかい布などでふき取り、ライトのレンズ部に傷が付かないように注意してください。
ライトのレンズ部に傷が付くと、明るさが低下する原因になります。

警告シグナルについて

本製品は、工具本体の状態を検出する機能が付いており、作業中に各検出機能が作動すると、表示ランプが以下のように点灯してお知らせします。

各検出機能が作動したときは、直ちにスイッチから指をはなし、対処方法に従ってください。



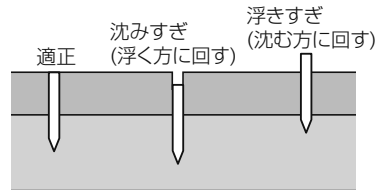
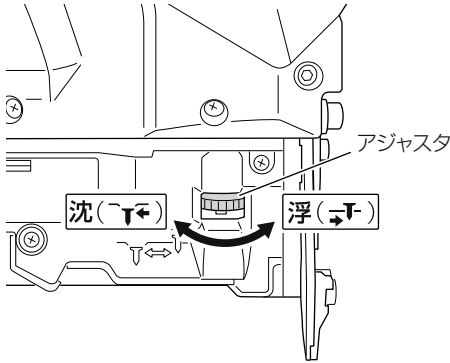
状 態		表示ランプ	対処方法
電池電圧低下状態※		緑色片側点滅 	蓄電池を充電してください。
過負荷状態		赤色点滅 	蓄電池を抜き、P.25「保守・点検」に従い、大きな負荷となった原因（ブッシュレバーの溝に詰まったステーブル等）を取り除いてください。
その他		その他の点滅	故障の可能性があります。お買い求めの販売店にお問い合わせください。
高温状態		LED ライト明暗点灯 + 緑色明暗点灯 	蓄電池および本体を十分に冷ましてください。
釘詰まり	+ 	LED ライト点滅 + 赤色交互点滅 	続けて何度も起こる場合は故障の可能性があります。お買い求めの販売店にお問い合わせください。

※ 低温状態のときは、蓄電池残量があっても「電池電圧低下」を検出する場合があります。

注 対処方法を実施しても改善しない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

打ち込み深さの調整

アジャスタを回すことにより、打ち込み深さを調整できます。
試し打ちし、釘が沈みすぎるときは、アジャスタを浮く方（マーク→↑）に回します。
釘の頭が浮くときは、アジャスタを沈む方（マーク→↓）に回します。
アジャスタは、1回転させるごとに0.75 mm 移動します。

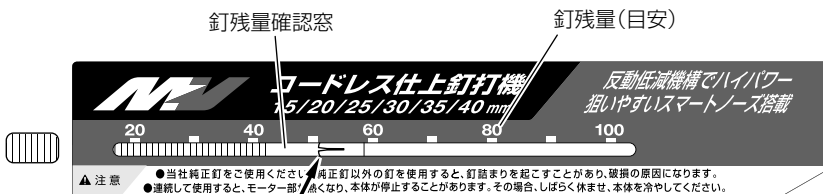


空打ち防止機構について

この釘打機は釘がなくなった後の空打ちを防ぐため、空打ち防止機構を備えています。
釘がなくなると、機体が作動しなくなります。

釘残量確認窓について

釘残量確認窓から見える黄色の部品の先端部で、釘残量を確認できます。
(下図は約 50 本)



黄色の部品の先端部(この場合は釘残量約50本)

釘の取扱い方

注 • 釘は、ていねいに扱ってください。

落とすと、連結部が切れることがあり、そのままの状態で使用すると釘送り不良により、空打ち、釘詰まりなどが発生することがあります。連結部が切れた釘は使用しないでください。

• 釘は長時間外気や直射日光にさらさないでください。

さびの発生や、連結部に不具合が生じる場合があります。釘梱包箱などに入れて保管してください。

フックの使い方

フックは、作業の合間に腰ベルトなどにつり下げる機能を持っています。
左右に付け替えて使用することができます。

⚠ 警告

- フックを使用するときは、スイッチをロックし、蓄電池を工具体体から抜いてください。
- フックを使用するときは、工具体体が落下しないように、しっかりと掛けてください。
工具体体が落下すると、事故の恐れがあります。

使用例

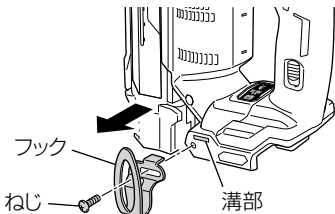


⚠ 注意

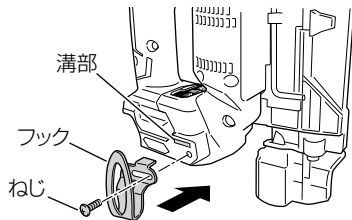
フックはしっかりと取付けてください。
フックの取付けが不完全なまま使用すると、けがの原因になります。

1 フックをはずす

プラスドライバーを使用してねじをはずします。



2 付け替えてねじを締付ける



ご使用前の点検・準備

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

⚠警告

- ねじ類がゆるんでいないことを、十分に点検してください。
- 損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に作動しない部品がないことを点検してください。
- 点検・準備の際は、スイッチをロックし、蓄電池を工具体体から抜いてください。

●釘の準備と安全点検

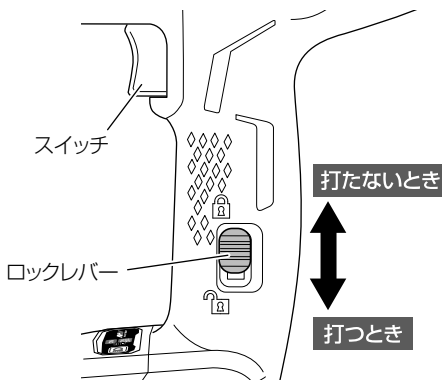
用途に合った釘を準備してください。(P.12「別売部品」参照)
P.25「保守・点検」を参照し、安全点検を必ず行ってください。

●スイッチのロック機構について

この機体には、スイッチを引けなくするロック機構が付いています。

ロックレバーを「」の位置にするとスイッチがロックされます。

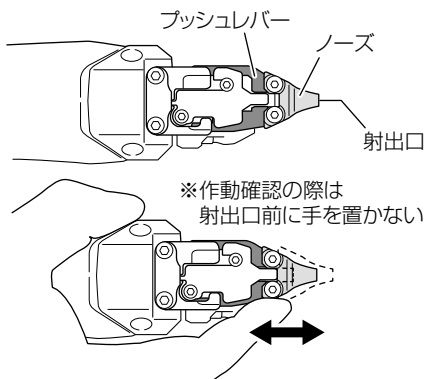
打つときはロックレバーをスライドして「」の位置にし、打たないときは「」の位置にしてください。



● プッシュレバーの作動確認

ノーズ部を上下させ、プッシュレバーとノーズがスムーズに摺動することを確認してください。

動きが悪いときは、プッシュレバーの摺動部を清掃してください。

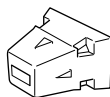


● ノーズキャップの使い方

化粧合板など柔らかい物への作業は、プッシュレバーの先端にノーズキャップを取付けます。

表面をプッシュレバーで傷付けるのを防止できます。

本製品には、2種類のノーズキャップが標準付属されています。用途に合わせて使用してください。



ノーズキャップ (A)

巾木の溝内に適しています。



ノーズキャップ (B)

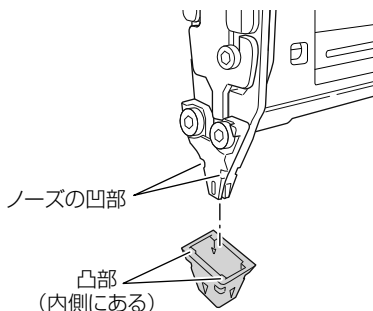
柔らかい材料への打ち込みに適しています。

ノーズキャップの取付け・取りはずし

ノーズキャップはノーズに押し込むだけで取付けできます。ノーズキャップの凸部(2か所)がノーズの凹部(2か所)に合うように取付けてください。

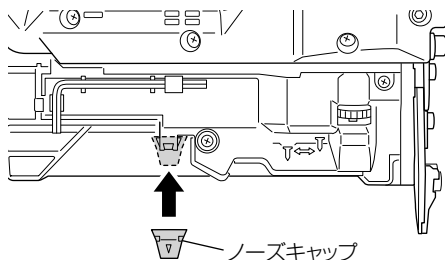
取りはずすときは、ノーズキャップを指で引いて、取りはずします。

取りはずしにくいときは、ノーズのすき間にマイナスドライバーなどの細い棒を入れ、取りはずします。



ノーズキャップの保管

取りはずしたノーズキャップは、右図に示すように、マガジンにさし込んで保管してください。



釘の装てんと抜き取り

⚠ 注意

釘の装てん・抜き取りの際は、スイッチをロックし、蓄電池を工具体から抜いてください。

釘の装てん

注

- 釘は 5 本以上連結された物を使用してください。
- 長さの違う釘を同時に装てんしないでください。
- 連結本数の少ない釘を、一度に数連装てんしないでください。
釘詰まりなど、不具合の原因になります。
- 本機は 15 mm から 40 mm までの長さの釘が使用できます。
いずれの長さの釘も足先をマガジン下部の溝底に突き当ててください。

1 ストップレバーを軽く押し、マガジンカバーを静かに引き出します。

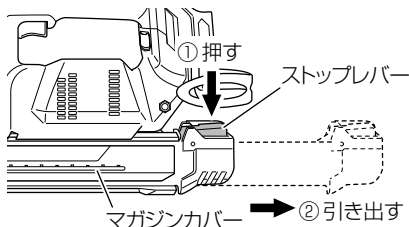
2 釘の足先をマガジンの溝の奥に入れます。
釘をブレードガイドの中へスライドさせます。

3 マガジンカバーを元どおりに閉じます。

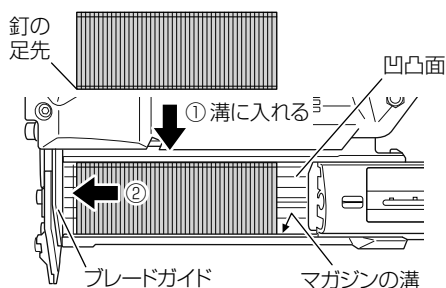
注

- マガジンカバーは静かに閉めてください。
強く閉めると、釘の連結が変形して、マガジンカバーが閉まらないことがあります。
- マガジンカバーが閉まりにくいときは、マガジンの各溝部を点検してください。
溝部に釘が侵入している場合があります。釘が侵入している場合は細い棒を用いて取り除いてください。

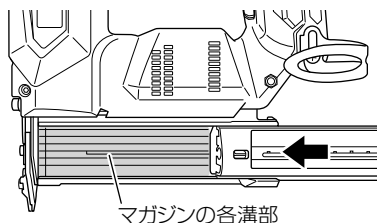
1



2

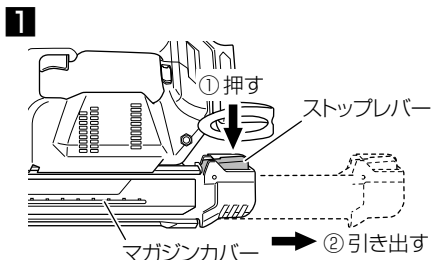


3

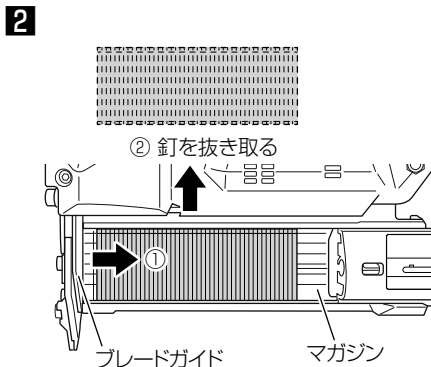


釘の抜き取り

- 1 ストップレバーを軽く押し、マガジンカバーを静かに引き出します。



- 2 釘をマガジンのガイド面にそって、スライドさせて、釘をマガジンから抜き取ります。



- 注**
- ブレードガイド内に釘が残ってしまうことがあります。ブレードガイド内に残った釘は見えにくいので、釘が残っていないか確認してください。
 - 釘詰まりして釘が抜き取れないときは、P.25「釘詰まりの直し方」を参照してください。

釘を打つ

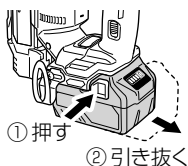
- 建築内装の巾木・回り縁などの化粧合板止め
- 下地施工

警告

- 人体に射出口を向けないでください。
- 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。
- 一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。
- 作業終了後はスイッチをロックし、蓄電池を工具本体から抜いて、釘を全部抜き取ってください。

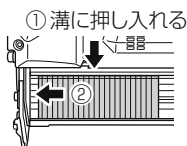
1 蓄電池を取りはずす

誤操作防止のため、蓄電池を工具本体より抜いてください。



2 釘を装てんする

用途に合った寸法の釘をマガジンに装てんしてください。
(P.21 **釘の装てん** 参照)



3 ノーズキャップを取付ける

必要に応じてノーズキャップを取付けます。

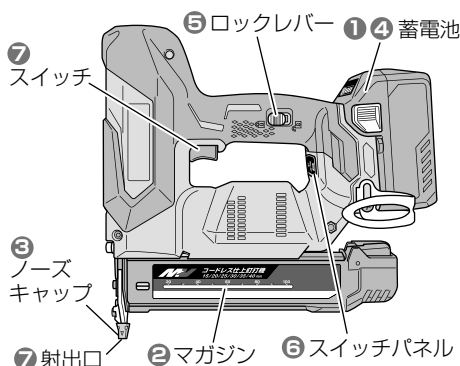
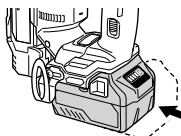


(P.20「ノーズキャップの使い方」参照)

注 低温時に使用すると、機体の動きが悪くなることがあります。
蓄電池を充電して使用してください。

4 蓄電池を取付ける

右図の向きで「カチッ」と音がするまで、しっかりと押し込んでください。



安全装置について

本製品は、プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当て、スイッチを引かなければ釘は発射しません。

従って、スイッチを引いただけのとき、または、プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけでは、釘は発射しません。

これは、誤ってスイッチを引いたり、プッシュレバーを押し当てただけで釘が発射されることを防ぐためです。

また、プッシュレバーを押し当てたまま4秒以内にスイッチを引かないと打てません。このときは、対象物からプッシュレバーをはなしてください。

⚠ 警告

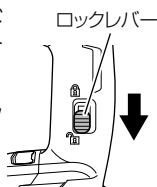
スイッチを引くときは、他の指でプッシュレバーなどを固定しないでください。

誤って釘が発射した場合、けがの原因になります。

5 ロックレバーのロックを解除する

ロックレバーをスライドして、ロックを解除してください。

(P.19「スイッチのロック機構について」参照)

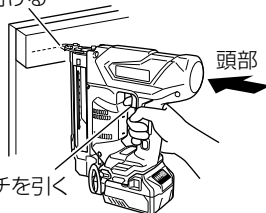


6 釘を打つ

(左ページの**安全装置について**参照)

- 釘を打つ所にプッシュレバーを確実に押し付けてスイッチを引きます。

① プッシュレバーを押し付ける



② スwitchを引く

- 釘の打ち込みが不完全なときは、本機の頭部をしっかりと押さえて打ち込んでください。
- 釘の打ち込み深さ調整は P.17「打ち込み深さの調整」を参照してください。
- 釘を打った後、プッシュレバーを対象物に押した状態で、次の打ち込み位置へ移動して再度スイッチを引いても釘を打つことができます。

- 注**
- 材料のかたさ・厚さ・組み合わせによっては釘が曲がる場合や材料が割れる場合がありますので、試し打ちしてから使用してください。
 - 逆の手順(先にスイッチを引き、プッシュレバーを押し付ける)を行っても釘は発射されません。

7 作業を終了する

作業後は、スイッチをロックし、蓄電池を工具体体から抜いて、釘を全部抜き取ってください。

(P.22 **釘の抜き取り** 参照)

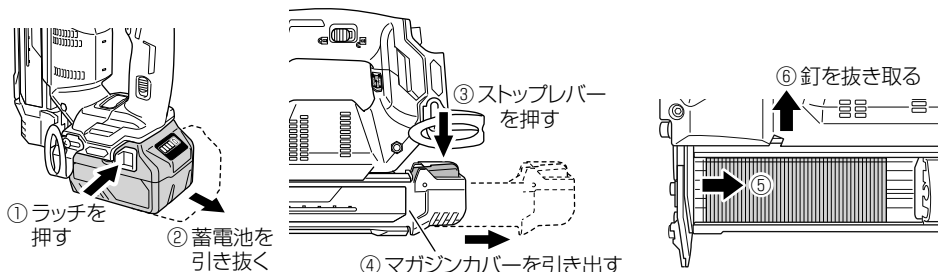
保守・点検

⚠ 警告

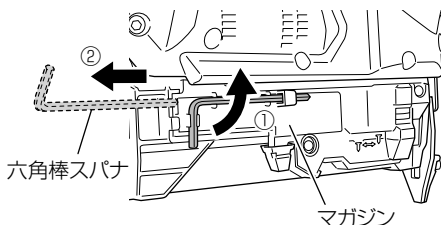
釘詰まりを直すときや、保守・点検・お手入れの際は、スイッチをロックし、蓄電池を工具体から抜いてください。

● 釘詰まりの直し方

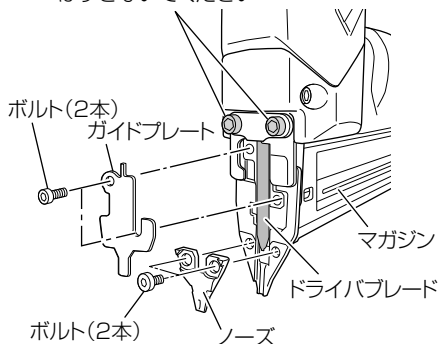
- 1** マガジンに入っている釘を全部抜いてください。
(P.22 **釘の抜き取り** 参照)



- 2** マガジン後部に収納してある六角棒スパナを使用してノーズ、ガイドプレートをはずします。



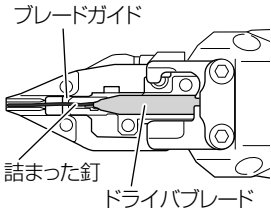
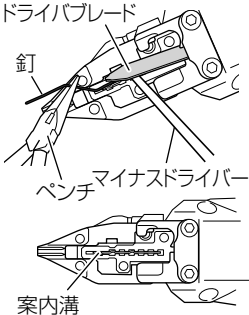
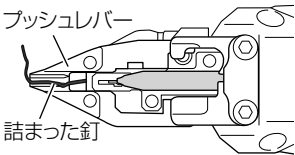
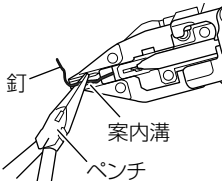
注 このボルト(2本)は、はずさないでください



- 3** プッシュレバーやブレードガイドの案内溝に詰まった釘、接着剤、破片、木くずなどを取り除いてください。(下表参照)

⚠注意

詰まった釘を取り除く際は、必ずペンチ等を用いてください。
ドライバブレードが不用意に動くことがあり、けがの原因になります。

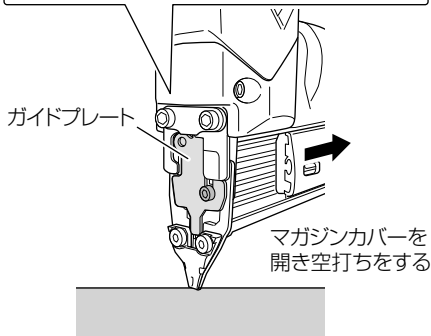
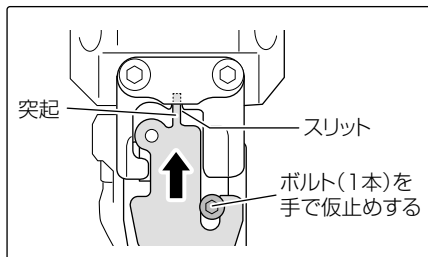
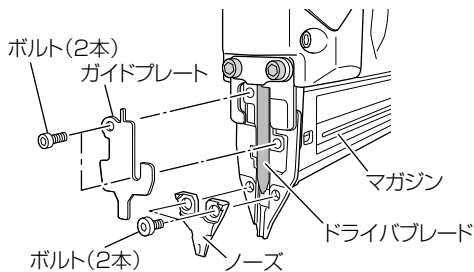
ドライバブレードの位置	詰まった釘の取り除き方
〔ブレードガイド側〕 	(1) マイナスドライバー等でドライバブレードを反らせる。 (2) ペンチで釘を取り除く。 (3) 案内溝内に残っている釘の破片やごみをマイナスドライバー等で取り除く。 
〔プッシュレバー側〕 	(1) ペンチで釘を取り除く。 (2) 案内溝内に残っている釘の破片やごみをマイナスドライバー等で取り除く。 

4 ガイドプレートとノーズを取付けます。

注 ガイドプレートが取付けづらいときは、以下の手順で作業を行ってください。

- ① ガイドプレートの突起をスリットに入れ、ボルト(1本)を手で軽く仮止めをします。
- ② アジャスタを"浮"方向へ回します。(P.17「打ち込み深さの調整」参照)
- ③ 蓄電池を取付けます。
- ④ ロックレバーのロックを解除します。
- ⑤ マガジンカバーを開きます。
- ⑥ 木材等にノーズを押し当て、一度空打ちをしてください。
- ⑦ スイッチをロックし、蓄電池を工具本体から抜きます。
- ⑧ 再度ガイドプレートを取付けてください。

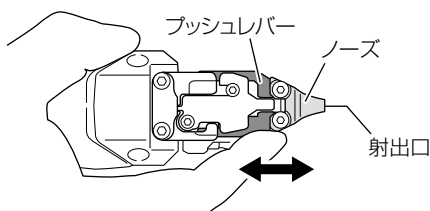
ガイドプレートを無理に取付けると故障の原因になります。



5 組み立て後、プッシュレバーとノーズを引き出してスムーズに上下することを確認します。

注 ●釘詰まりを起こしたまま、またはガイドプレートを取りはずした状態で機体を作動させると、故障の原因になります。

●釘詰まりを直した後の初回作動時は、警告シグナルが(その他の点滅)点滅する場合があります。
その場合スイッチをロックし、蓄電池を抜き差しして、再度作動させてください。

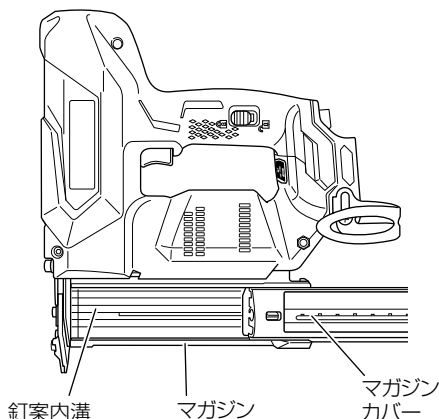


※作動確認の際は射出口前に手を置かない

●マガジンの点検

マガジン内を時々掃除してください。
マガジンカバーを引き出して、溝の中に
たまった釘の接着剤、ごみ、木くずなど
を取り除いてください。

注 釘案内溝が汚れると、釘の動きが悪
くなり、空打ちが発生しやすくなり
ます。



●機体の点検

各部部品を取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。
ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。
異常がある場合は、お買い求めの販売店に相談してください。

●清掃する

機体が汚れたときは、石けん水に浸した布を良く絞ってからふいてください。
ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用し
ないでください。

●機体や付属品の保管

下記のような場所は避け、温度が 50℃未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

- 注**
- お子様の手が届く場所、持ち出せる場所
 - 軒先など雨が掛かる場所、湿気のある場所
 - 温度が急変する場所、直射日光の当たる場所
 - 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

● リチウムイオン電池の輸送について

リチウムイオン電池を輸送する場合、次の点に注意してください。

⚠ 警告

輸送会社にはリチウムイオン電池を含む荷物であること、および電力量を伝えて、輸送会社の指示に基づいた手続きを行ってください。

- 電力量が 100 Wh を超えるリチウムイオン電池の場合は、輸送貨物の分類上、危険物扱いとなり、特別な申請等が必要になります。
- 海外へ輸送する場合、国際法令および輸送先国の規制に従う必要があります。

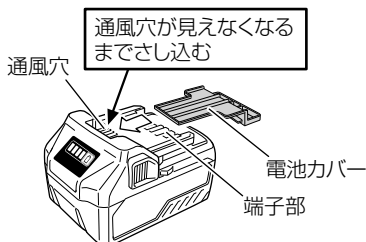


● リチウムイオン電池の保管について

⚠ 警告

リチウムイオン電池の端子部に導電性のある異物が入り込むと、短絡（ショート）して発熱・発煙・発火する恐れがありますので、保管するときは、以下の内容を必ず守ってください。

- 収納ケースに導電性のある切りくずや釘、針金や銅線などの線材を入れないでください。
- 短絡（ショート）するのを防ぐため、蓄電池は工具本体にさし込むか、電池カバーを取付けて保管してください。



- 注** リチウムイオン電池を保管するときは、満充電にして保管してください。蓄電池の残量が少ない状態で長期間（3 か月以上）保管すると蓄電池が劣化し、使用時間が著しく短くなる、または充電できなくなる恐れがあります。使用時間が著しく低下した蓄電池でも、充電と使用を 2 ～ 5 回繰り返すと使用時間が回復する場合があります。充電と使用を繰り返しても使用時間が極端に短い場合は、蓄電池の寿命が尽きたとお考えいただき、新しい蓄電池をお買い求めください。

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認のうえ、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などをご記入し、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日・弊社休業日を除く 9:00～12:00, 13:00～17:00	
●フリーダイヤル  0120-20-8822	※携帯電話からはご利用になれません。 携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。 ※長くお待ちする場合があります。 お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部	●北陸支店
TEL (03) 5783-0626	TEL (076) 263-4311
●北海道支店	●関西支店
TEL (011) 786-5122	TEL (0798) 37-2665
●東北支店	●中国支店
TEL (022) 288-8676	TEL (082) 504-8282
●関東支店	●四国支店
TEL (03) 6738-0872	TEL (087) 863-6761
●中部支店	●九州支店
TEL (052) 533-0231	TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

<https://www.hikoki-powertools.jp/relation/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認
いただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>